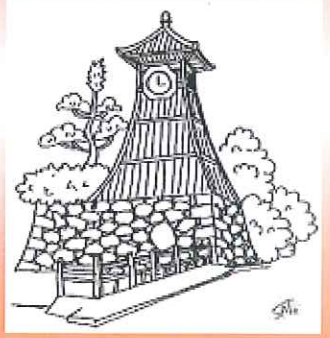


出石  
城下町伝建  
かわら版

平成 23 年 2 月 25 日発行 編集／豊岡市・豊岡市教育委員会（出石総合支所 地域振興課：Tel.0796-21-9025）

先進地視察研修に  
ぜひご参加ください！

熊川宿

小浜西組

2月9日、出石まちなみ保存会役員、出石まちなみ設計士会4役、市出石総合支所地域振興課による合同会議が開催され、保存会役員及び4月以降の新役員の研修を主目的に、3者共催で先進地視察研修を実施することが決まりました。

せっかくの機会ですので、バスの定員に達するまで保存会一般会員（住民）の方からも参加者を募ります。今回は、若狭町熊川宿と小浜市小浜西組の2箇所を視察する“お得”なツアーですので、ぜひ参加くださるようご案内いたします。

**若狭町熊川宿伝建地区**は、江戸時代に若狭湾から京都に抜ける「鯖（さば）街道」の物資流通の中継拠点として栄えた宿場町です。平成8年に重要伝建地区に選定された町並みは、伝建事業が進み、また街路舗装や電柱撤去などの事業が行われることにより、とても美しい町並みを残しています。



整然とした熊川宿の町並み

一方の**小浜市小浜西組伝建地区**は、平成20年に重要伝建地区に選定された新しい伝建地区です。

しかし、町並みの魅力はもちろん、イベントの開催など「町並み協議会」の活動は活発で、今後の出石での活動に大いに参考になることと思います。

## ＜視察研修のあらまし＞

- ☆とき 平成23年**3月14日(月)**  
午前7時30分出発(予定)  
午後6時30分帰着(予定)
- ☆集合場所 出石総合支所 南側駐車場
- ☆視察先 **・若狭町熊川宿 伝建地区(福井県)**  
**・小浜市小浜西組 伝建地区(福井県)**
- ☆募集対象 出石伝建地区関係者ならどなたでも
- ☆募集人数 25人(保存会新旧役員優先のうえ、先着順)
- ☆参加費 1,000円程度(昼食代)
- ☆申込期間 **3月1日(火)～3月9日(水)**
- ☆申込先 市出石総合支所 地域振興課  
(Tel:21-9025)



建物脇にはNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」のロケ地だった説明看板も！

# 今年度の伝建事業完了!

平成22年度の伝統的建造物群保存地区保存事業は4ヶ所7件あり、1月までにすべての物件の工事が完了しました。

文化財として建物の価値を損ねないように修理した建物は、ますます磨きがかかり、出石城下町の風情を高めました。

まちなみ保存の理解をもって伝建事業に協力いただいた所有者のみなさまに感謝し、修理前、修理後の外観写真と修理概要を紹介します。

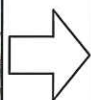
## 《T家住宅主屋1》(八木)



### 【修理前】

漆喰で大壁(柱を覆った壁)になっている二階は、格子がアルミサッシの出窓に変わり、空調室外機も下屋根上に設置されていました。

玄関引戸もアルミサッシに取り替えられていました。



### 【修理後】

二階出格子、真壁(柱を見せた壁)、1階木製玄関戸を復元し、軽快でとても素敵な印象の建物に戻りました。

空調室外機は写真左下に移設し、2階小窓のガラスは二重ガラスを採用するなど、居住性の維持向上も図っています。向かって右の通柱を補強し、内部に耐震ダンパーを設置するなど、地震対策も施しました。

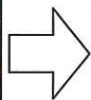
## 《T家住宅主屋2》(八木)



### 【修理前】

過去の台風禍で2階建具のガラスが割れてしまい、修理が必要でした。

下屋根の瓦は欠けが多く、葺き替え修理が望まれていました。



### 【修理後】

2階ガラス戸は枠の木組が痩せていてガラスだけの取替えができないことから、同じ意匠で新調しました。戸と戸の当たりにはあいじゃくり(凹凸のはめ込み)を設けることにより、強風にもぶれず、隙間風が入らないようになって、住み心地も良くなりました。

瓦も元の雰囲気の出雲瓦で葺きなおし、伝統的建造物の魅力を維持向上させています。

## 《諸杉神社社務所》（内町）



### 【修理前】

全体的に老朽化が進み、建物全体が傾斜しているので、基礎からの工事が必要でした。

屋根瓦も傷み、葺き替えが必要でした。



### 【修理後】

屋根瓦の葺き替え、壁の塗りなおし、建具の入れ替えなどにより、見違えるように美しく蘇りました。構造的にもベタコンクリート基礎の施工、土台の取替え、柱の根継ぎ・取替え等により、建築当初以上に頑丈になっています。

また、補助金交付対象外ですが、懸案だったトイレを内部に設置するなど、利便性も向上しました。

## 《M家住宅主屋1(奥)・主屋2(手前)》（材木）



### 【修理前】

妻側（側面）の外壁は銀色の亜鉛鉄板で覆われていました。

正面2階の土壁は老朽化が進み、建物全体の補強工事も必要でした。



### 【修理後】

妻面を板壁に、アルミサッシ引戸を木製引戸に復元し、土壁を塗りなおすことで、大変締まった感じになりました。

土壁の土は但東町赤坂の赤土を使い、ベンガラなどの混ぜ物なしで元の壁の土色を再現しています。

正面向かって左端に半間の耐力壁を新設するだけでなく、補助金対象となる耐力壁を内部にも多く設置し、腐食した柱を取り替えるなどして耐震性を高めました。

## 《M家住宅主屋1》（材木）



### 【修理前】

道路地盤が上がることにより土台等が地中に埋まり、1階の外観が元の形態から変わっていました。



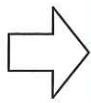
【修理後】  
2階窓には出格子があったことが痕跡からわかりましたので復元しました。1階建具を切り詰めて基礎石、土台、束を地上に現し、本来の意匠を蘇らせました。

## 《N家住宅主屋》（魚屋）



### 【修理前】

妻側（側面）が1階、2階とも亜鉛鉄板で覆われています。  
屋根瓦も老朽化が進み、一部で雨漏りしていました。



### 【修理後】

屋根瓦を全面葺き替え、妻側（側面）に1階、2階とも焼杉板を施工し、開口部には格子を設けて、伝統的建造物の価値を向上させました。

下屋根の上にあった空調機室外機も中庭に移設し、生活に無理なく景観の向上を果たしました。

## 《N家土蔵》（魚屋）



### 【修理前】

本屋根、下屋根が老朽化し、雨漏りにより反対側の外壁土壁が崩落していました。



### 【修理後】

本屋根、下屋根とも下地から修理して瓦を葺き替えました。崩落した反対側の土壁も、崩壊しかけていた扉も、左官職人さんが腕によりをかけて見事に復原を果たしました。

補助金の交付による修理で伝統的建造物が守られ、町並み景観が向上していく伝建事業は、出石城下町の魅力を大きく向上させてくれます。予算の制約はありますが、今後も住民のみなさんと二人三脚で積極的に伝建事業を進めていきたいと思ひます。

出石まちなみ保存会 監事 中西久美雄さん（材木）から一言！

昨年度に伝建事業の修理・修景基準の細則検討会に参加しましたが、細則で事業の基準が決められても、材木区では高齢化がすすみ、また跡を継ぐ者も少なく、今までよりも修理、修景事業の実施に迷う人も出てくるのではなからうかと思ひます。

また、区では間口が狭く駐車スペースがとれないことも問題視されています。

今後も空き家が増え、それにともない空き地も増えることが予想されます。

町並みを整えていくとともに、地区に居住していただき、住民が増えることが大きな望みです。これらの問題をまちなみ保存会、審議会の皆さんとともに考えながら進んでいきたいと思ひます。

文化庁  
“保存修理”  
ロゴマーク

修理現場から

文化力  
POWER OF CULTURE

火の用心！